

平成22年度
安曇野市埋蔵文化財発掘調査報告書
東小倉遺跡採集資料整理報告

2012.3

安曇野市教育委員会



東小倉遺跡出土有舌尖頭器 (200%) (左：表、右：裏)



東小倉遺跡出土石皿、凹石



東小倉遺跡出土縄文土器



ハツ口遺跡試掘 B トレンチ出土土器

序

現在、安曇野市では約400箇所の埋蔵文化財包蔵地の存在が知られています。ここには、集落跡のような遺跡だけでなく、古墳や中世の山城・館跡なども含まれています。これらの遺跡をきちんと守って、後世に伝えていくことは、安曇野市教育委員会としての重要な使命のひとつです。このため、平成22年度に安曇野市教育委員会の事業として本書に掲載した埋蔵文化財保護措置や整理・調査を行いました。保護措置の内訳は、試掘調査13件、工事立会調査55件、慎重工事4件となります。

本書に掲載した調査によって、少しずつ市内の遺跡の様子がわかってきました。こうした地道な埋蔵文化財保護事業を継続することは、私たちの身近に眠る先人たちの足跡を探ることであると同時に、発掘調査のための基礎データを蓄積することであり大切なことです。

また、本書に掲載させていただきました東小倉遺跡採集資料整理報告は、長年地域で遺跡を守ってくださった故堀内國利氏の資料を紹介させていただくものであります。氏が採集された資料はひとつひとつ丁寧に整理され保管されていました。これらの遺物が、現在までに6次を数える東小倉遺跡発掘調査の端緒となったものでもあります。今回の整理報告作成にご理解・ご協力を賜りましたご家族には、厚く御礼申し上げます。

本書掲載の調査成果が多くの市民に活用され、広く安曇野の歴史・文化解明に役立つことを祈念し序とさせていただきます。

平成24年（2012）3月

安曇野市教育委員会
教育長 丸山 武人

例 言

- 1 本書は長野県安曇野市（平成17年10月1日に豊科町・穂高町・三郷村・堀金村・明科町が合併して誕生）で平成22年度に実施された埋蔵文化財保護事業及び東小倉遺跡採集資料整理の報告書である。
- 2 本書掲載の調査は、安曇野市教育委員会が実施した。調査体制は各章の通りである。
- 3 本書の編集は事務局が行った。執筆は土屋和章が担当した。
- 4 本書で使用した主な引用・参考文献は巻末に一括して掲載した。
- 5 本書掲載の調査に関する事務書類及び記録類は安曇野市教育委員会が保管している。
- 6 調査全般にわたり以下の方々からご指導・ご協力いただきました。記して感謝いたします。（敬称略・五十音順）

大澤 慶哲、桐原 健、小林 康男、島田 哲男、山下 泰永、山田 真一

凡 例

- 1 本書実測図で遺物は次のように表現した。また、縮尺は各図に示した。
土師器：断面無地 黒色処理：トーン 赤彩：グレー
- 2 土層の色調は農林水産省農林水産技術会議事務局監修「新版 標準土色帳」に準じた。
- 3 本書に掲載した地図の方位は、上が真北を示す。

目 次

序

例言・凡例

目次・挿図目次・表目次

第1章 平成22年度埋蔵文化財保護事業	1
1 埋蔵文化財保護事業の概要	1
2 試掘調査	6
第2章 東小倉遺跡採集資料整理報告	16
1 調査の契機と経過	16
2 遺跡の位置と環境	17
3 調査の成果	21
4 調査の総括	33
写真図版	34
報告書抄録	

挿図目次

第1図	平成22年度発掘調査等位置図……………2	第15図	栗の木下遺跡試掘位置図……………13
第2図	八ツ口遺跡試掘位置図……………6	第16図	潮神明宮前遺跡試掘位置図……………14
第3図	トレンチ配置図……………6	第17図	町田遺跡試掘位置図……………14
第4図	Bトレンチ出土土器……………7	第18図	みどりヶ丘遺跡試掘位置図……………15
第5図	古殿屋敷試掘位置図……………8	第19図	周辺の遺跡……………18
第6図	トレンチ配置図……………8	第20図	第1～6次発掘調査位置図……………20
第7図	出土土器……………9	第21図	土器、土偶……………23
第8図	なかじま遺跡試掘位置図……………10	第22図	有舌尖頭器、石鎌……………24
第9図	北才の神遺跡試掘位置図……………10	第23図	石鎌、鈎状石器……………25
第10図	穂高高校北遺跡試掘位置図……………11	第24図	石錐、石匙、耳飾……………26
第11図	宮地遺跡試掘位置図……………11	第25図	打製石斧……………27
第12図	塩田若宮遺跡試掘位置図……………12	第26図	磨製石斧……………28
第13図	龍門淵遺跡試掘位置図……………12	第27図	石皿、石棒、凹石……………29
第14図	黒沢浄水場東遺跡試掘位置図……………13		

表目次

第1表	平成22年度発掘調査等一覧……………4	第5表	東小倉遺跡発掘調査記録……………19
第2表	Bトレンチ出土土器観察表……………7	第6表	東小倉遺跡採集土器観察表……………30
第3表	出土土器観察表……………9	第7表	東小倉遺跡採集土偶観察表……………30
第4表	三郷地域の遺跡……………18	第8表	東小倉遺跡採集石器観察表……………31

第1章 平成22年度埋蔵文化財保護事業

1 埋蔵文化財保護事業の概要

事務局の体制

平成22年度の安曇野市における埋蔵文化財保護事業は、教育委員会事務局文化課文化財保護係が担った。体制は次のとおりである。

事務局 安曇野市教育委員会事務局 文化課

竹内 邦彦（文化課長）、那須野 雅好（文化財保護係長）、土屋 和章（文化財保護係）

地理的環境と遺跡の立地

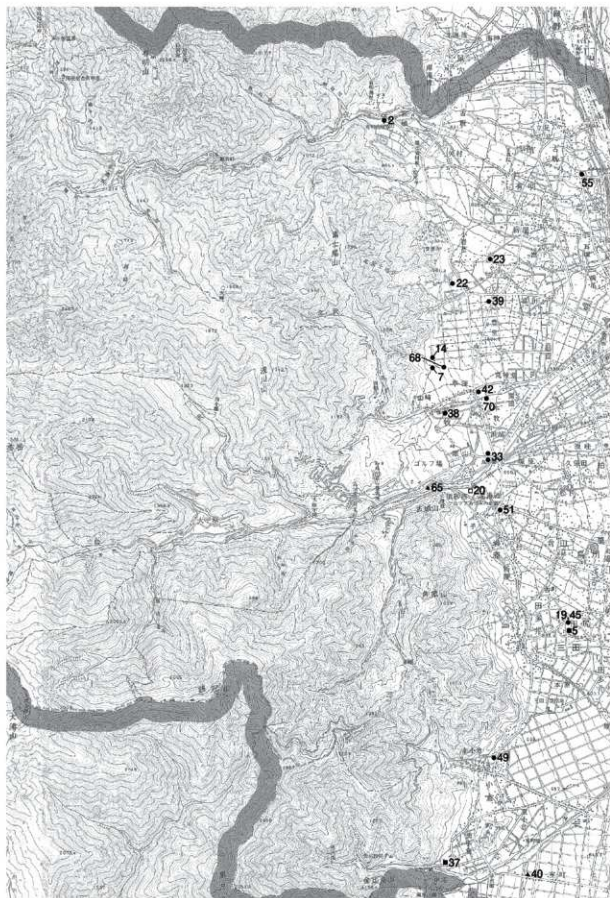
安曇野市は平成17年（2005）10月1日に豊科町・穂高町・三郷村・堀金村・明科町の5町村が合併して誕生した市で、長野県のほぼ中央部に位置し、北は大町市、松川村、池田町、生坂村、筑北村、南は松本市に隣接する。地形的には松本盆地の中ほどにあり、西は飛騨山脈、東は筑摩山地と接する。松本盆地は構造性の盆地で、縁辺部から流れるいくつもの河川が運搬した堆積物により形成されている。

安曇野市内に所在する遺跡は現在約400箇所が周知であり、時代としては縄文時代早期から現代に至る。縄文時代の遺跡は、主として北アルプス山麓の扇状地扇頂付近及び犀川以東の河岸段丘上に多く立地しており、過去の調査からは縄文中期に隆盛を極めたことがわかる。弥生時代になると遺跡数は減少し、集落の立地も扇状地扇端へ移る。生業形態の変化が遺跡立地の変化に影響している可能性が示唆され、この集落立地は基本的に現代まで踏襲されている。安曇野市では前・中期の古墳は現在までに発掘調査では確認されておらず、後期の群集墳が北アルプス山麓や明科地域に分布する。奈良時代以降は、前代までの立地を踏襲するように犀川以西の扇端と犀川以東の河岸段丘上に集落が営まれるなか、明科地域では明科廃寺と呼称される古代寺院の存在が確認されている。また、豊科田沢の山間部一帯から隣接する松本市域にかけて須恵器窯群が築かれている。

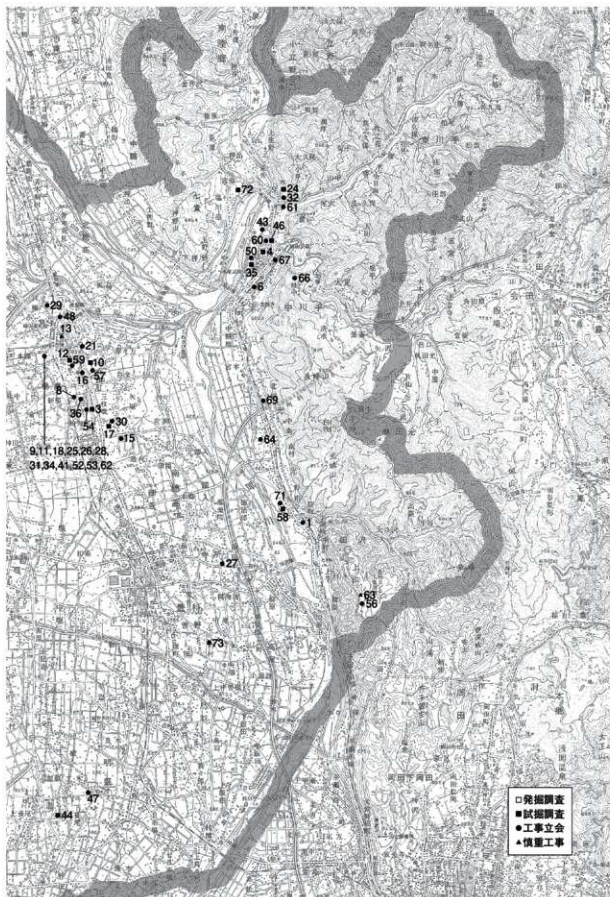
平成22年度の概要

平成22年度の安曇野市における埋蔵文化財保護措置の一覧は第1表のとおりである。安曇野市教育委員会の実施した発掘調査等は合計72件で、内訳は発掘調査0件、試掘調査13件、工事立会55件、慎重工事4件となっている。それぞれの位置は第1図に示す。試掘調査の概要は次項で取り上げた。

また、安曇野市教育委員会が調査主体となった埋蔵文化財保護事業のほか、國學院大學文学部考古学研究室によって穂高古墳群 F9号墳の学術発掘が実施されている（吉田・中村編2011）。



第1図 平成22年度発掘調査等位置図 (1/75,000)



第1表 平成22年度発掘調査等一覧

No.	調査	遺跡	所在地	工事目的等	調査日_自	調査日_至
● 1	工事立会	小瀬幅道跡	豊科田沢 4838番1	個人住宅	20100405	20100405
● 2	工事立会	道跡外	穂高有明 2111番3	その他の建物	20100408	20100408
■ 3	試掘	ハツ口道跡	穂高 1376番1	店舗	20100414	20100415
■ 4	試掘	古殿屋敷	明科中川手 4244番10外5筆	その他の建物	20100426	20100426
■ 5	試掘	なかじま道跡	堀金三田 1252番2外1筆	個人住宅	20100511	20100511
● 6	工事立会	上郷道跡	明科中川手 3295番1外2筆	その他の建物	20100520	20100520
● 7	工事立会	寺島畑道跡	穂高牧 1490番1	宅地造成	20100521	20100601
● 8	工事立会	追廻道跡	穂高柏原 1700番33	個人住宅	20100524	20100603
● 9	工事立会	宮脇道跡	穂高 10110番21	個人住宅	20100603	20100603
■ 10	試掘	北才の神道跡	穂高 2494番1外13筆	宅地造成	20100608	20100608
● 11	工事立会	宮脇道跡	穂高 10110番8	個人住宅	20100610	20100610
■ 12	試掘	穂高高校北道跡	穂高 6685番5外3筆	宅地造成	20100614	20100614
▲ 13	慎重工事	穂高神社境内道跡	穂高 5980番8外1筆	その他開発	20100615	20100615
● 14	工事立会	寺島畑道跡	穂高有明 7926番外	水路	20100630	20100702
● 15	工事立会	中在地道跡	穂高 743番1	その他の建物	20100716	20100716
● 16	工事立会	北才の神道跡	穂高 2514番1	店舗	20100802	20100802
■ 17	試掘	宮地道跡	穂高 943番1	宅地造成	20100722	20100805
● 18	工事立会	宮脇道跡	穂高 10110番5	個人住宅	20100809	20100809
● 19	工事立会	なかじま道跡	堀金三田 1272番7	個人住宅	20100809	20100809
□ 20	発掘調査	穂高古墳群 F9号墳	穂高柏原 3621番	学術研究	20100802	20100810
● 21	工事立会	北才の神道跡	穂高 2557番1	その他の建物	20100821	20100821
● 22	工事立会	小岩嶽下木戸道跡	穂高有明 3618番34	個人住宅	20100830	20100830
● 23	工事立会	小岩嶽下木戸道跡	穂高有明 2949番35	個人住宅	20100830	20100830
■ 24	試掘	塚田若宮道跡	明科東川手 867番14外	その他開発	20100901	20100901
● 25	工事立会	宮脇道跡	穂高 10110番16	個人住宅	20100903	20100903
● 26	工事立会	宮脇道跡	穂高 10110番20	個人住宅	20100910	20100910
● 27	工事立会	上手木戸道跡	豊科南穂高 117番1	個人住宅	20100927	20100927
● 28	工事立会	宮脇道跡	穂高 10110番18	個人住宅	20101012	20101012
● 29	工事立会	貝梅道下道跡	穂高 5307番5外2筆	個人住宅	20101015	20101015
● 30	工事立会	宮地道跡	穂高 941番	個人住宅	20101018	20101018
● 31	工事立会	宮脇道跡	穂高 10110番4	個人住宅	20101019	20101019
● 32	工事立会	塚田若宮道跡	明科東川手 831番1外1筆	ガス・水道・電気等	20101019	20101019
● 33	工事立会	道跡外	穂高牧 34番2外	公園造成	20100915	20101022
● 34	工事立会	宮脇道跡	穂高 10110番6	個人住宅	20101026	20101026
■ 35	試掘	龍門潭道跡	明科中川手 3917番2	個人住宅	20101104	20101104
● 36	工事立会	追廻道跡	穂高柏原 1676番3	個人住宅	20101104	20101104
■ 37	試掘	黒沢浄水場東道跡	三郷小倉 1829番1	個人住宅	20101105	20101105
● 38	工事立会	新林道跡	穂高牧 1856番1	工場	20101108	20101110
● 39	工事立会	有明南原道跡	穂高有明 2651番外	ガス・水道・電気等	20101104	20101116
▲ 40	慎重工事	調整池北道跡	三郷小倉 4787番1	農業基盤整備事業	20101118	20101118
● 41	工事立会	宮脇道跡	穂高 10108番5外1筆	個人住宅	20101118	20101118
● 42	工事立会	他谷道跡	穂高牧 834番1外	ガス・水道・電気等	20101117	20101119

No.	調査	遺跡	所在地	工事目的等	調査日_自	調査日_至
● 43	工事立会	古屋敷遺跡	明科東川手 318番3外1筆	個人住宅	20101126	20101126
■ 44	試掘	栗の木下遺跡	三郷温 2193番1外3筆	集合住宅	20101129	20101129
● 45	工事立会	なかじま遺跡	堀金三田 1289番16	個人住宅	20101129	20101129
■ 46	試掘	潮神明宮前遺跡	明科東川手 554番外	道路	20101202	20101202
● 47	工事立会	三柱神社東遺跡	三郷明盛 4875番2外1筆	個人住宅	20101118	20101207
● 48	工事立会	等々力町巾上巾下遺跡	穂高 4375番9	個人住宅	20101207	20101207
● 49	工事立会	鳴沢B遺跡	三郷小倉 300番1外	道路	20100215	20101214
● 50	工事立会	龍門洞遺跡	明科中川手 3917番2外1筆	個人住宅	20101220	20101220
● 51	工事立会	遺跡外	堀金烏川	農業基盤整備事業	20101220	20101220
● 52	工事立会	宮脇遺跡	穂高 10110番12	個人住宅	20101222	20101222
● 53	工事立会	宮脇遺跡	穂高 10108番7	個人住宅	20101222	20101222
● 54	工事立会	八ッ口遺跡	穂高 1376番1	店舗	20101113	20101113
● 55	工事立会	古経氏館跡	穂高有明 6322番2先外	道路	20101114	20101114
● 56	工事立会	上ノ山窟跡群	豊科田沢 8141番479	その他開発	20101115	20101115
● 57	工事立会	北才の神遺跡	穂高 2494番18	個人住宅	20101021	20101021
■ 58	試掘	町田遺跡	豊科田沢 4599番1外2筆	その他の建物	20101025	20101025
● 59	工事立会	穂高高校北遺跡	穂高 6685番5外1筆	個人住宅	20101026	20101026
● 60	工事立会	潮神明宮前遺跡	明科東川手 554番外10筆	道路	20101202	20101026
● 61	工事立会	堀田若宮遺跡	明科東川手 878番1外10筆	道路	20101124	20101026
● 62	工事立会	宮脇遺跡	穂高 10107番2	個人住宅	20101020	20101020
▲ 63	慎重工事	上ノ山窟跡群	豊科田沢 8141番184	その他の建物	20101020	20101020
● 64	工事立会	中条遺跡	明科光 860番	個人住宅	201010215	201010215
▲ 65	慎重工事	雁山遺跡	穂高牧 2221番	その他開発	201010217	201010217
● 66	工事立会	城下遺跡	明科中川手 5387番他11筆	道路	20101227	201010223
● 67	工事立会	上郷遺跡	明科中川手 4015番1外1筆	その他の建物	201010224	201010224
● 68	工事立会	寺島畑遺跡	穂高有明 5653番3先外	道路	20101020	201010225
● 69	工事立会	北村遺跡	明科光 517番1	個人住宅	201010228	201010228
● 70	工事立会	寺前・北田遺跡	穂高牧 567番先外	ガス・水道・電気等	20101030	20101030
● 71	工事立会	町田遺跡	豊科田沢 4599番1外2筆	その他の建物	201010318	201010322
■ 72	試掘	みどりヶ丘遺跡	明科七貫 7237番	個人住宅	201010328	201010328
● 73	工事立会	吉野町遺跡	豊科 3046番外1筆	個人住宅	201010331	201010331

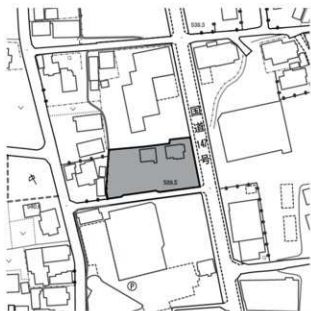
2 試掘調査

ハツコ遺跡 (第1表■3)

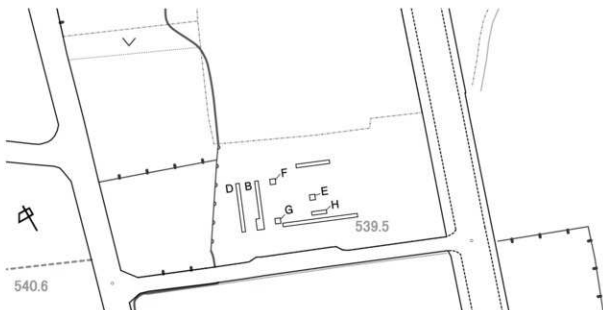
所在地	安曇野市穂高1376番1
調査期間	平成22年(2010)4月14日～15日
調査面積	67㎡
調査契機	店舗

概要

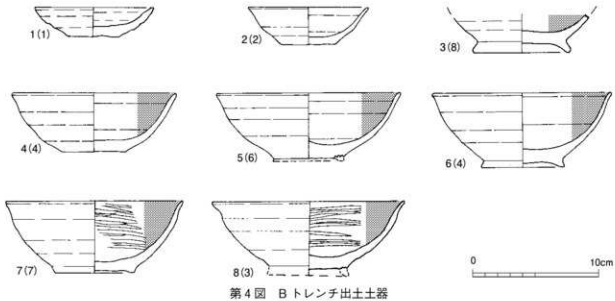
店舗建設予定地にトレンチを設定し、遺構・遺物の検出を試みた。この遺跡は発掘調査によって、Ⅲ層とされた砂質シルト層に古代の遺構が確認されている(安曇野市教育委員会2010)。今回の試掘では、深度約110cmまでの範囲を調査した。この結果、開発区域内西側に設定したBトレンチ南端から土器とともに遺構と考えられる土層が断片的に確認された。しかし、この箇所は既存のコンクリート構造物による攪乱が著しく全容の把握は困難であったため、遺物のみ回収した(第4図)。また、調査区南に設定したCトレンチには攪乱を受けていない砂質シルト層が確認されたが、遺物・遺構は検出していない。これ以外のトレンチ及び土層確認地点は、主としてコンクリートブロックやビニール袋などの廃棄物が埋まっており、この厚みは最大で160cmに及ぶ。



第2図 ハツコ遺跡試掘位置図(1/2,500)



第3図 トレンチ配置図(1/1,000)



第4図 Bトレンチ出土土器

第2表 Bトレンチ出土土器観察表

図版	No.	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	外面調整	内面調整	底部	残存部位
第4図1	1	土師器	坏A	9.1	4.0	2.4	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	口縁部～底部
第4図2	2	土師器	坏A	9.4	4.2	2.9	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	口縁部～底部
第4図3	8	黒色土器A	椀	不明	7.4	[3.0]	ロクロナデ	ミガキ	ナデ	体部下～底部
第4図4	5	黒色土器A	坏A	12.9	5.0	4.6	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	口縁部～底部
第4図5	6	黒色土器A	坏A	14.2	不明	[5.15]	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	口縁部～底部
第4図6	4	黒色土器A	椀	13.8	6.4	5.8	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り+ナデ	口縁部～底部
第4図7	7	黒色土器A	椀	13.8	6.2	5.6	ロクロナデ	ミガキ	ナデ	口縁部～底部
第4図8	3	黒色土器A	椀	15.0	不明	[5.6]	ロクロナデ	ミガキ	ナデ	口縁部～底部

※[]内は残存している部位の法量

試掘調査出土土器を第4図に示した。これらはBトレンチ南端から出土した遺物で、おそらくこの位置に遺構があったと観察されたが、コンクリート構築物によって破壊されているため明確には確認できていない。ただし、図示できた遺物はまとめて回収できたため一括した資料と考えることができる。

あかしな いせきんらるこのやしき

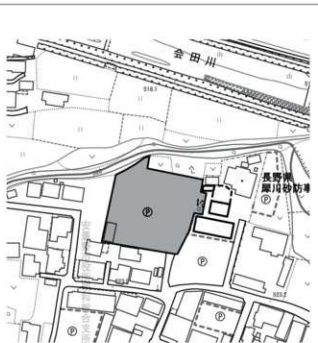
明科遺跡群古殿屋敷 (第1表■4)

所在地	安曇野市明科中川手4244番10外
調査期間	平成22年(2010) 4月26日
調査面積	61㎡
調査契機	その他の建物(有料老人ホーム)

概要

建造物建設予定地にトレンチを設定して遺構・遺物の検出を試みた。工事で影響が及ぶ可能性がある地表下約100cmまでの範囲で調査したところ、トレンチ底部から砂質シルト層が検出された。この層からは、遺構の可能性のある落ち込みと古墳時代の土器類が若干量出土した。一部深掘りを実施し、下層の観察を行ったところ地表下150cm以下では砂層であった。今回の開発計画は掘削深度が40cm程度であるため、遺構等に影響を及ぼす可能性は低いと考えられる。

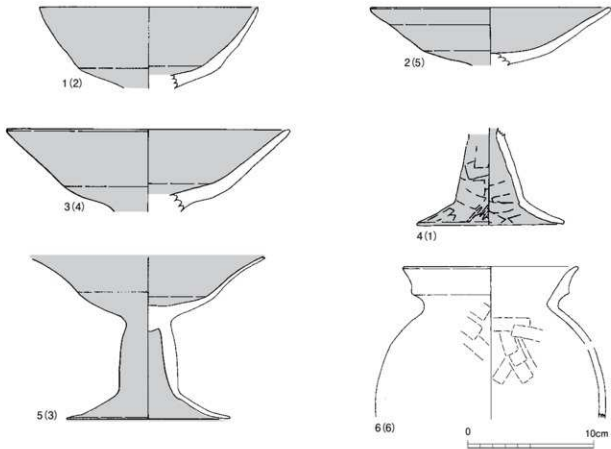
※報告書作成時(平成24年3月)現在、未着工。



第5図 古殿屋敷試掘位置図 (1/2,500)



第6図 トレンチ配置図 (1/1,000)



第7図 出土土器

第3表 出土土器観察表

図版	No.	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	外面調整	内面調整	底部	残存部位
第7図1	2	土師器	高坏	17.0	不明	[6.4]	ミガキ+赤彩	ミガキ+赤彩	不明	口縁部~体部下半
第7図2	5	土師器	高坏	22.4	不明	[6.5]	ミガキ+赤彩	ミガキ+赤彩	不明	口縁部~体部下半
第7図3	4	土師器	高坏	19.0	不明	[4.5]	ミガキ+赤彩	ミガキ+赤彩	不明	口縁部~体部下半
第7図4	1	土師器	高坏	不明	11.4	[7.7]	ミガキ+赤彩	ミガキ+赤彩	不明	脚部
第7図5	3	土師器	高坏	不明	12.8	[12.7]	ミガキ+赤彩	ミガキ+赤彩	不明	体部上半~脚部
第7図6	6	土師器	甕	13.8	不明	[12.0]	ナデ	ナデ	不明	口縁部~体部

※[]内は残存している部位の法量

試掘調査出土土器を第7図に示した。いずれも、地表下100cm付近の砂質シルト層から出土しており、この付近からは大小の遺構プランを確認している。このため、この深度付近に古墳時代を中心とした集落跡が存在すると考えられる。

なかじま遺跡 (第1表■5)

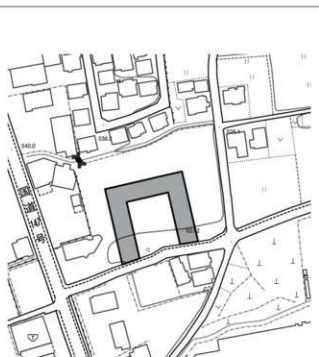
所在地	安曇野市堀金三田1252番2外
調査期間	平成22年(2010)5月11日
調査面積	21㎡
調査契機	個人住宅
概要	<p>個人住宅建設予定地にトレンチを設定し、遺構・遺物の検出を試みた。約80cmの深度で掘削し調査を行った結果、トレンチ底面に小溝状の落ち込みが確認された。このため、この落ち込みを一部精査したが掘り方は浅く緩やかで、人為的な痕跡は認められなかった。したがって、遺構・遺物は確認されず住宅建設で埋蔵文化財が影響を受けることはないと判断された。</p>



第8図 なかじま遺跡試掘位置図(1/2,500)

北才の神遺跡 (第1表■10)

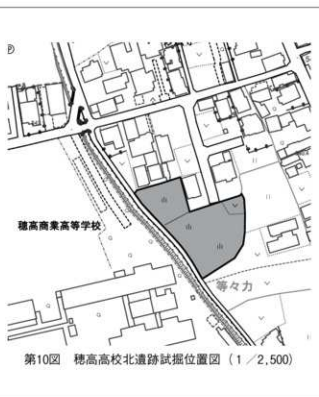
所在地	安曇野市穂高2494番1外
調査期間	平成22年(2010)6月8日
調査面積	59㎡
調査契機	宅地造成
概要	<p>宅地造成予定地の道路部分に5箇所のトレンチを設定し、遺構・遺物の検出を試みた。この土地は従前店舗用の建物が存在したため、建物基礎などにより一部破壊されていたが、大部分は砂質シルト層が残存していた。この結果、地表下80~200cmで確認される砂質シルト層で微細な土器片が土中に混入している様子が確認できたが、採取できないほどの量と大きさであった。また、一部深掘りを実施したところ、さらに下には砂礫層が確認された。したがって、今回の造成により埋蔵文化財に影響を与える可能性はないと判断されたが、近接地に遺構等が存在する可能性がある。</p>



第9図 北才の神遺跡試掘位置図(1/2,500)

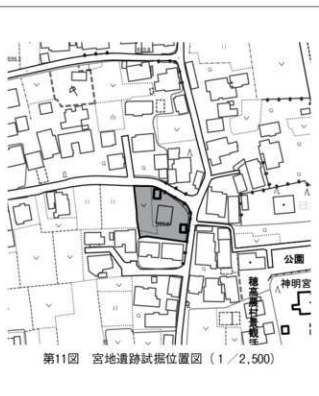
穂高高校北遺跡 (第1表■12)

所在地	安曇野市穂高6685番5外
調査期間	平成22年(2010)6月14日
調査面積	6㎡
調査契機	宅地造成
概要	<p>宅地造成予定地に調査区を設定し、遺構・遺物の検出を試みた。この結果、地表下50～150cmで確認された粘土質シルト層及び砂質シルト層にごく微細な土器片が混入している様子が確認されたのみで、他に人為的な痕跡は確認されていない。今回の宅地造成では浸透枳以外の箇所の掘削がごく浅いため、遺構等に影響を与える可能性はきわめて低い。ただし、付近に遺構が存在する可能性はあるため、近隣での土木工事等には留意する必要がある。</p>



矢原遺跡群宮地遺跡 (第1表■17)

所在地	安曇野市穂高943番1
調査期間	平成22年(2010)7月22日～8月5日
調査面積	51㎡
調査契機	宅地造成
概要	<p>宅地造成予定地に調査区を設定し、遺構・遺物の検出を試みた。この結果、調査地内西側では地表下約50cmで砂礫層を検出したが、東側でこの砂礫層を確認できたのは200cm以下であった。遺物は近世以降の陶器破片が出土したのみである。この調査時、地表から灰釉陶器・黒色土器A等が採取されたため付近にトレンチを設定し精査したが、遺構は確認できなかった。また、別の地点から洪武通宝も表面採集されている。このことから、付近に古代～中世の遺構が存在する可能性がある。</p>



しおだわかみや
塩田若宮遺跡 (第1表■24)

所在地	安曇野市明科東川手867番14外
調査期間	平成22年(2010)9月1日
調査面積	52㎡
調査契機	その他開発(保育園園庭)
概要	<p>今回の調査では開発予定地にトレンチを1箇所設定し、遺構・遺物の検出を試みた。この地点は平成21年度に発掘調査を実施した近接地にあたる(安曇野市教育委員会2011)。調査の結果、トレンチ東側の地表下30~80cm付近に堆積した砂質シルト層下部から石皿が出土した。このため、トレンチを拡張したが、他に人為的な痕跡は確認できていない。また、トレンチ西側では過去に建造物が存在したため、攪乱を受けており遺構・遺物は確認できなかった。</p>



第12図 塩田若宮遺跡試掘位置図(1/2,500)

りゅうもんろ淵遺跡 (第1表■35)

所在地	安曇野市明科中川手3917番2
調査期間	平成22年(2010)11月4日
調査面積	21㎡
調査契機	個人住宅
概要	<p>個人住宅建設予定地にトレンチを2箇所設定し、遺構・遺物の検出を試みた。この地点は28年前前に発掘された記録があるが、土層などの詳細が不明確なため今回改めて調査し観察を行う目的で試掘を実施した。この結果、地表下200cmまでビニール紐などが混入する造成土であり、この下は湧水を伴う礫混粘土層であった。このため遺構・遺物は確認できていない。したがって、今回の個人住宅建設が埋蔵文化財に影響を与えることはないと判断された。</p>



第13図 龍門淵遺跡試掘位置図(1/2,500)

くろさわじょうすいじょうりかし
 黒沢浄水場 東遺跡 (第1表■37)

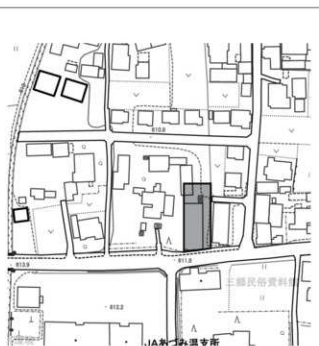
所在地	安曇野市三郷小倉1829番1
調査期間	平成22年(2010)11月5日
調査面積	6㎡
調査契機	個人住宅・店舗
概要	<p>個人住宅・店舗建設予定地に調査区を設定し、遺構・遺物の検出を試みた。調査地点は畑地であり、表土として黒褐色の耕作土の堆積があったが、この層厚は10～60cm程度で、下には黄褐色ローム層が堆積している。耕作土中に遺構等の人為的な痕跡があるか詳細に観察したが、確認できなかった。調査の結果、開発で影響を受ける可能性のある地表下100cm程度までの間には埋蔵文化財が存在していないと判断された。</p>



第14図 黒沢浄水場東遺跡試掘位置図(1/2,500)

くろさわのきした
 栗の木下遺跡 (第1表■44)

所在地	安曇野市三郷温2193番1外
調査期間	平成22年(2010)11月29日
調査面積	25㎡
調査契機	集合住宅
概要	<p>集合住宅建設予定地にトレンチを2箇所設定し、遺構・遺物の検出を試みた。この結果、地表下30cm付近から層厚20cm程度で多量の炭化物・ビニール紐等を含む層が確認された。この場所は昭和50年代に住宅火災があったため、この火事の影響と考えられる。また、地表下30～50cmで砂質シルト層中に微細な土器片の混入が確認できたが、採取できない程度の大きさであり、時期等も不明である。また、ここから遺構は確認できていない。この下には水分を多く含む礫層の堆積が見られる。</p>

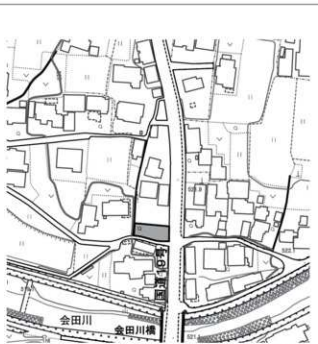


第15図 栗の木下遺跡試掘位置図(1/2,500)

うしおしんあいでうま

潮 神明宮前遺跡 (第1表■46)

所在地	安曇野市明科東川手554番外
調査期間	平成22年(2010)12月2日
調査面積	11㎡
調査契機	道路
概要	<p>市道拡幅予定地にトレンチを設定し、遺構・遺物の検出を試みた。試掘前にこの付近で灰軸陶器が表面採集されたため遺構の存在が予測されたが、調査の結果層厚約160cmの擾乱が確認された。この擾乱には現代の瓦が混入する。この下の層は径10cm程度の円礫を多く含む砂礫層であった。したがって、この拡幅箇所にかかる本調査は必要ないと判断されたが、付近に埋蔵文化財が存在する可能性は高いため、周囲での掘削等には留意が必要である。</p>

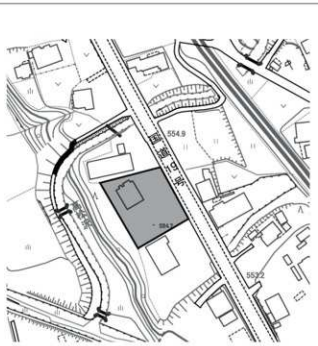


第16図 潮神明宮前遺跡試掘位置図 (1/2,500)

まち

町田遺跡 (第1表■58)

所在地	安曇野市豊科田沢4599番1外
調査期間	平成23年(2011)1月25日
調査面積	81㎡
調査契機	その他の建物(福祉施設)
概要	<p>福祉施設建設予定地にトレンチを7箇所設定し、遺構・遺物の検出を試みた。今回の調査地点は以前石斧が出土した記録がある。このため、注意して検出に努めたが、開発で予定されている深度約120cmの掘削では、遺構・遺物ともに確認できなかった。ただし、一部深掘りをして調査を行ったところ、地表下280cm付近で炭化物(木炭)の集見が見られた。この調査の結果、今回の開発で埋蔵文化財に影響を与えることはないが、本遺跡と立地環境が類似する北村遺跡のように地表下300cm程度に文化層が存在する可能性がある。</p>



第17図 町田遺跡試掘位置図 (1/2,500)

みどりヶ丘遺跡（第1表■72）

所在地	安曇野市明科七貫7237番
調査期間	平成23年（2011）3月28日
調査面積	6㎡
調査契機	個人住宅
概要	<p>個人住宅建設予定地にトレンチを3箇所設定し、遺構・遺物の検出を試みた。調査地は畑地であり、周辺で表面採集の記録もあることから遺構の存在を予測していたが、層厚40～60cmの耕作土下は径5～30cmの円礫を多く含む砂礫層であった。調査区南側のトレンチでは、地表下40cm付近で土器を包含する土層を確認している。この場所は、今回の開発にかからないため、直接的な影響を受けないが、今後付近で開発事業がある際には、留意する必要がある。</p>



第18図 みどりヶ丘遺跡試掘位置図（1/2,500）

第2章 東小倉遺跡採集資料整理報告

1 調査の契機と経過

調査の契機と経過

安曇野市三郷小倉の黒沢川橋左岸一帯に広がる地域は、土器・石器類が採集できる場所として人々に知られていた。このため、平成5年（1993）以降現在まで6次にわたって旧三郷村教育委員会が開発行為に際して発掘調査を実施し、同村教育委員会及び安曇野市教育委員会から調査成果が報告されている（三郷村教育委員会1995、1997、2003、2005、安曇野市教育委員会2006）。

今回、整理を実施した資料は東小倉地籍在住であった故堀内國利氏が生前に採集した遺物である。これらの中には、三郷村教育委員会によって既に報告されているものが含まれる（三郷村教育委員会1995、1999）。しかし、縄文時代の石器については量が多く未報告資料があることから今回再整理を行い、その一部をここに掲載するものである。

なお、掲載遺物の全ては故堀内國利氏所蔵であり、今回の整理に際してはご遺族のご厚意を賜った。記して感謝いたします。

整理作業体制

この整理作業は平成23年度に以下の調査体制で実施した。また、費用の一部に緊急雇用創出事業を活用した。

調査主体 安曇野市教育委員会

調査担当者 那須野 雅好（文化課文化財保護係長）、土屋 和章（文化課文化財保護係）

作業参加者 北林 節子、桜井 千夏、細尾 みよ子、松田 洋輔

事務局 安曇野市教育委員会事務局 文化課

原野 和徳（文化課長）、那須野 雅好（文化財保護係長）、

逸見 大悟（文化財保護係）、土屋 和章（文化財保護係）

整理作業の経過

整理作業は平成23年度事業として実施した。平成23年（2011）4月に作業開始し、堀内氏ご自宅から資料を借用した。その後、遺物洗浄・注記確認・実測・写真撮影等を行い、平成24年（2012）3月に返却、本報告書を刊行して全事業を終了した。

2 遺跡の位置と環境

地理的環境

東小倉遺跡は長野県安曇野市三郷小倉の東小倉地区に所在する。この地区は、松本盆地西方にそびえる北アルプスから流下する黒沢川扇状地上に位置し、海拔は約650～660mとなっている。

本遺跡は黒沢川左岸、黒沢川橋の西方に展開しており、水面との比高は約7mをはかる。遺物採集地付近の地質的狀況については、木船清氏による故堀内國利氏宅の庭での観察報告に詳しい（三郷村教育委員会2006）。これによると、ロームの上部に河川堆積物があり、その上にローム混じりの2～5cm程度の亜角礫をもつ砂礫層が重なる。

歴史的環境

東小倉遺跡の所在する安曇野市三郷地域は松本盆地西縁部の山地・山麓とそこから流下する河川が形成した扇状地からなっている。このうち山麓・扇状地扇頂付近には縄文時代の遺跡が多く分布し、東流する河川本流及び分流付近では弥生時代、平安時代の集落跡が展開している。また、山間部や河岸段丘などのやや急峻な地形を利用して、中世の山城が築かれている。

現在までに安曇野市内で旧石器時代の遺跡が発掘された例はないが、明科中川手の吐中遺跡で昭和31年（1956）にオオツノシカの化石が発見された記録がある。また、この報告に掲載したとおり東小倉遺跡からは有舌尖頭器が採集されているため、旧石器時代の遺跡が黒沢川流域に存在する可能性もある。

確実に人々の生活を確認できるのは縄文時代以降で、三郷地域では縄文早期の押型土器片が山麓から数点採集されている。また、調整池北遺跡では、早期から前期にかけて玦状耳飾を製作していたと考えられる集落跡の存在が現実視されている（三郷村誌編纂委員会2006）。黒沢川周辺については、昭和58年（1983）に黒沢川右岸遺跡の発掘調査が実施され、竪穴建物跡と小竪穴が検出された。ここからは絡状体圧痕土器や胎土に繊維を含む縄文土器、器壁の薄い条痕土器などが出土し、早期末から前期初頭に比定されている（三郷村教育委員会1988）。縄文時代中期になると、南松原遺跡及び東小倉遺跡で大規模な集落が営まれた。南松原遺跡は昭和45年（1970）に発掘調査され、竪穴建物跡が14棟確認されている（三郷村誌編纂会1980、三郷村教育委員会1999）。出土土器から南松原遺跡の集落は中期中葉を中心としていることから、中期後葉に盛行した東小倉遺跡に先行する遺跡と考えられる。後晩期には、三郷地域からは散発的な土器片の出土があるのみで集落跡は現在のところ確認されていない。

弥生時代初頭には、三角原遺跡発掘調査で土坑から打製石斧と条痕土器が確認された（長野県埋蔵文化財センター2005）。これに続く時期の黒沢川右岸遺跡からは弥生時代中期の竪穴建物跡が2棟確認されており（三郷村教育委員会1988）、さらに堂原遺跡などでこれに後続する遺物が採集された記録もある（三郷村教育委員会1999）。

古墳時代から奈良時代にかけては、三郷地域で顕著な人々の生活痕跡は確認されていない。三郷小倉の山麓に位置する山の越遺跡からは古墳時代前期の土器が出土したが、遺構は確認されていない。また、堂原遺跡では、奈良時代の須恵器が確認されている。



第19図 周辺の遺跡 (1/17,500)

第4表 三郷地域の遺跡

No.	遺跡名	時代	種別	No.	遺跡名	時代	種別	No.	遺跡名	時代	種別
3-1	一本松遺跡	縄文	散布地	3-19	三柱神社東遺跡	平安以降	散布地	3-38	小倉城址	中世	城館跡
3-2	鳴沢A遺跡	縄文	散布地	3-20	白山神社横遺跡	縄文	散布地	3-39	北小倉1号・2号塚	古墳	古墳
3-3	才の神遺跡	縄文	散布地	3-21	一日市場郵便局南遺跡	縄文	散布地	3-40	堂屋敷遺跡	弥生	散布地
3-4	浄心寺南塚	中世以降	不明	3-22	上総屋敷遺跡	平安以降	散布地	3-41	山の越遺跡	古墳	散布地
3-5	浄心寺付近遺跡	縄文・中世	散布地	3-23	川岸最氏宅地遺跡	弥生	散布地	3-42	大日堂北遺跡	縄文	散布地
3-6	東小倉遺跡	縄文	集落跡	3-24	堂原遺跡	弥生・平安	散布地	3-43	中沢遺跡	平安以降	散布地
3-7	アルプス学園古墳	古墳以降	不明	3-25	若宮遺跡	平安	散布地	3-44	ゆの久保遺跡	縄文	散布地
3-8	黒沢石岸遺跡	縄文・弥生	集落跡	3-26	道下遺跡	平安・中世	集落跡	3-45	黒沢浄水場東遺跡	縄文	散布地
3-9	チンクラ屋敷遺跡	縄文・弥生	散布地	3-27	坂がいと遺跡	中世以降	散布地	3-46	富士塚	中世	散布地
3-10	南松原遺跡	縄文	集落跡	3-28	平福寺付近古墳	古墳	古墳	3-47	長者屋敷遺跡	縄文	散布地
3-11	調整池北遺跡	縄文	散布地	3-29	長尾城址北遺跡	縄文	散布地	3-48	千国橋北遺跡	縄文	散布地
3-12	福岡西遺跡	縄文	散布地	3-30	長尾城址	中世	城館跡	3-49	大宮遺跡	縄文	散布地
3-13	丁田遺跡	縄文・平安	散布地	3-31	赤坂西遺跡	縄文	散布地	3-50	及木西村遺跡	平安	散布地
3-14	三角原遺跡	縄文・平安以降	集落跡	3-32	住吉竹原遺跡	縄文	散布地	3-51	鳴沢B遺跡	縄文	散布地
3-15	楡中村遺跡	平安以降	散布地	3-33	鳴沢尻遺跡	縄文	散布地	3-52	龍峰寺跡	中世・近世	社寺跡
3-16	楡小路遺跡	縄文・平安以降	散布地	3-34	西牧遺跡	縄文	散布地	3-53	五反田遺跡	縄文	集落跡
3-17	楡上手遺跡	平安以降	散布地	3-35	地蔵沖遺跡	縄文	散布地				
3-18	栗の木下遺跡	平安以降	集落跡	3-36	大塚遺跡	弥生	散布地				
				3-37	巖屋遺跡	平安	散布地				

平安時代になると、三郷温の榎地区にある三角原遺跡で9世紀中葉以降の集落跡が展開する（長野県埋蔵文化財センター2005）。また、同じく三郷温にある栗の木下遺跡からも竪穴建物跡が確認されている（三郷村教育委員会1999）。

中世以降は、三角原遺跡や龍峰寺跡で遺物採集記録があるが、発掘調査で内容が明らかな遺跡は現在のところない（三郷村教育委員会2005）。

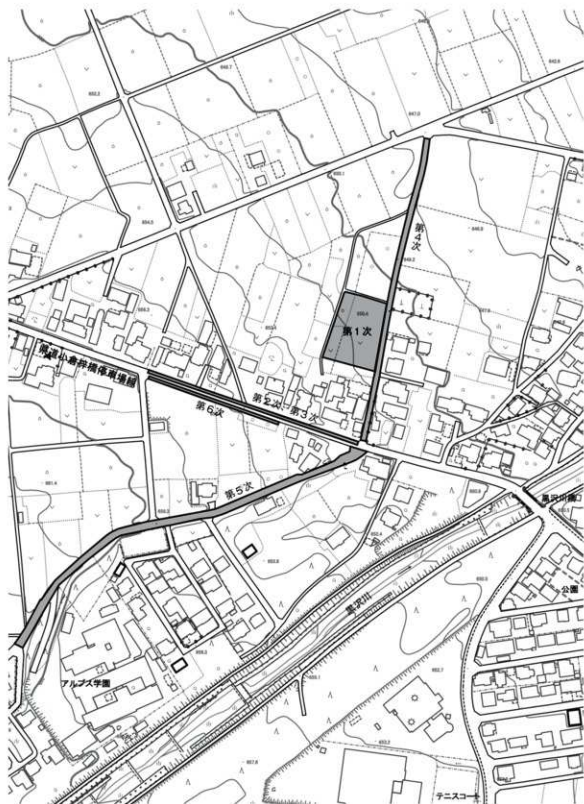
東小倉遺跡の概要

東小倉遺跡は本格的な発掘調査がなされる以前から、多量な遺物を有する遺跡として地元で知られていた。この地域は、江戸時代に「松本藩のお林」、明治時代には国有林となって「小倉官林」と呼ばれた。大正時代になると払い下げがなされて、大正9年（1920）頃から開拓が始まったとされ、旧小倉官林からはこの開拓時にすでに遺物の出土があった。このため、採集された遺物に「開墾地」と注記されたものも確認される。

昭和61年（1986）2月には、旧三郷村道514号線の工事に伴う立会調査が実施され、縄文時代中期後半に属する若干量の土器片が出土したが遺構は確認されていない（三郷村教育委員会2003）。平成5年（1993）に旧三郷村教育委員会によって東小倉遺跡第1次発掘調査が実施されたのを端緒として、開発事業に際し現在までに6次にわたる発掘調査が実施されている。この概要は第5表及び第20図に示した。

第5表 東小倉遺跡発掘調査記録

調査次	調査年	調査原因	遺構・遺物の概要	文献
第1次	平成5年	耕作に先立つ記録保存	竪穴建物4、小型穴1、土坑2、埋窆1、集石8、縄文土器、石器	三郷村教委 1995
第2次	平成9年	県道側溝工事	竪穴建物5、土坑6、縄文土器、石器	三郷村教委 1997
第3次	平成14年	下水道工事	竪穴建物11（うち第2次との重複5）、土坑、溝、縄文土器、石器	三郷村教委 2005
第4次	平成14年	下水道工事	竪穴建物10、土坑72、縄文土器、石器	三郷村教委 2003
第5次	平成14年	集落道改良工事	竪穴建物28、土坑、集石、埋窆、縄文土器、石器	三郷村教委 2005
第6次	平成17年	県道改良工事	竪穴状遺構1、溝2、土坑52、縄文土器	安曇野市教委 2006



第20図 第1～6次発掘調査位置図 (1/3,000)

3 調査の成果

今回整理した遺物は、故堀内國利氏が東小倉遺跡内で長年にわたって採集した資料を自宅に保管していたものである。借用した総点数は石器・石製品及び土器・土製品が1,200点弱であり、この他に剥片類約13kgが入った容器1箱がある。資料内容は多岐にわたるが、主として石器・石製品が多かったため、本報告でもこの傾向を反映し、ここに若干量の土器・土製品を加えた。整理方法は、借用した資料で洗浄が必要と考えられたものについて洗浄し、この中から報告に掲載する資料を抽出して実測及び写真撮影を実施した。なお、ここで取り上げた石器はツール及びその製作途中の未成品であり、剥片・チップ・碎片等を剥片類として区別した。

土器・土偶 (第21図)

土器類は本資料にはほとんどなく、実測可能なものを示した。第21図1は埋壘と考えられ、時期的には唐草文土器第3段階(吉川2008)に比定される。有孔罎付土器も見られるが、全体の器形は不明であった。土器類に比較して土偶は豊富で、一部を図示した。これら土偶に完形品や接合した資料はなく、いずれも部分的な出土である。頭部破片は顔面の表現に沈線を施しており、髷面の表現と捉えられるものもある。第21図8は赤彩が施されている。脚部破片には芯材があったであろう痕跡が観察できた。掲載した土偶はいずれも中実であり、脚部は自立可能な形態となっている。

有舌尖頭器 (第22図1)

基部に舌部を有し、鋭い先端部を持つ扁平な尖頭器を有舌尖頭器として分類した。この石器は、旧三郷村教育委員会発行の調査報告において既に掲載されているが(三郷村教育委員会1995)、今回再び借用し詳細に観察する機会を得たので再実測・再掲した。二等辺三角形の底辺に短い逆三角形の舌部が付く形態で、断面は凸レンズ状を呈し中央部で最も厚くなる。器体を作り出す際の剥離として先端から基部に向かい交互剥離が施され、剥離面は器体中央付近まで深く入り込むものもある。また、舌部の剥離は舌方向から施される。

石鏃 (第22図2～第23図17)

両側縁を連続する小型剥離によって成形され、両側縁の辺が先端部で交差する尖頭部を有する鏃形の小形剥片石器を石鏃とした。本資料には基部の形状によると凹基無茎鏃、平基無茎鏃、基部が円形をなす凹基鏃、基部が尖形をなす尖基鏃が見られる。

鉤状石器 (第23図18)

両面調整によって鉤状に成形された剥片石器を鉤状石器とした。本資料には1点見られる。類例の集成や使用痕分析なども行われているが、用途については不明確である(桐原1984、坂北村教育委員会2005)。県内の縄文中期後半遺跡に比較的多く見られるという特徴がある(桐原1984)。

石錐 (第24図 1～3)

錐部を有する剥片石器を石錐とした。本資料では石錐は錐部断面が四角形又はややくずれた四角形を呈するものが見られる。器体の成形方法には、押圧剥離による両面加工がほぼ全面に施されるもの、錐部を作出する部分にのみ二次加工が施されるものが見られる。

石匙 (第24図 4～8)

素材の両側縁にノッチ状の抉りを作成することで、つまみになる突起を一端に持つ剥片石器を石匙とした。本資料のうち図示した石匙には、刃部にほとんど二次加工を施さないものと刃部を inclusion 二次加工で作出しているものが見られる。

耳飾 (第24図 9)

平面形が円環を呈する石製の円盤を耳飾とした。本資料には1点見られる。破損しており全体が残存していないが、側縁部は溝状に切れ込みが入っている。この溝は製作時の痕跡か、機能的に必要なため作出したものかは不明であった。

打製石斧 (第25図 1～9)

大型の剥片又は礫を素材として、表裏面あるいは側面からの直接打撃による剥離により斧形に成形された剥片石器を打製石斧とした。形態としては短冊形・撥形が多くを占める。多くは表裏面からの両面加工を有し縁辺に連続する二次加工を施しているが、自然面を残し側縁部の二次加工が少ないものも見られた。

磨製石斧 (第26図 1～15)

研磨成形を最終調整とする斧形の磨製石器を磨製石斧とした。今回の資料では定角式磨製石斧が主体を占める。大きさの面では長さ6cmを下回る小型の磨製石斧も出土している。

石皿 (第27図 1、4)

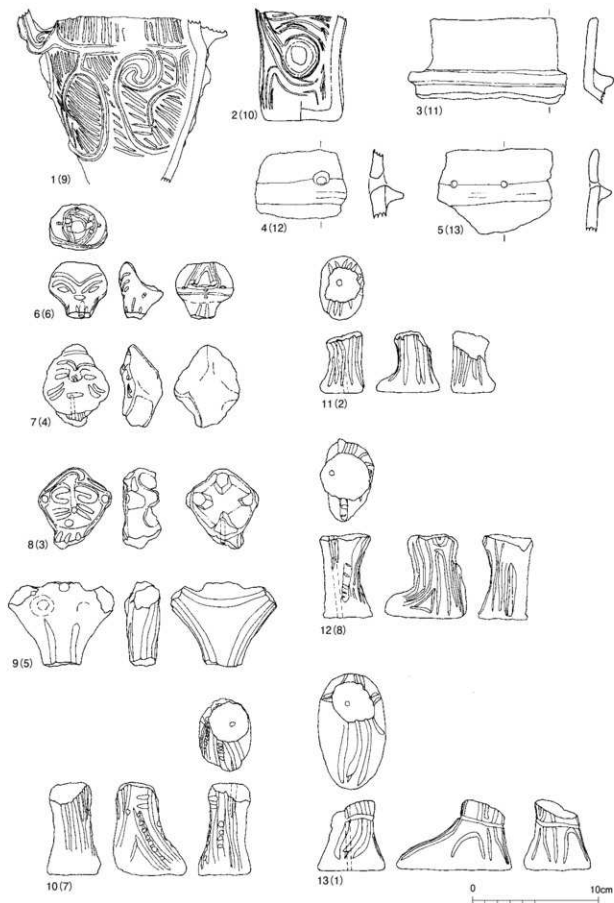
扁平礫や板状礫等の自然礫を素材として、擦痕・凹痕・敲打痕が観察された大型の礫核石器を石皿とした。主として皿部(使用面)のみ成形されている。

石棒 (第27図 2、3)

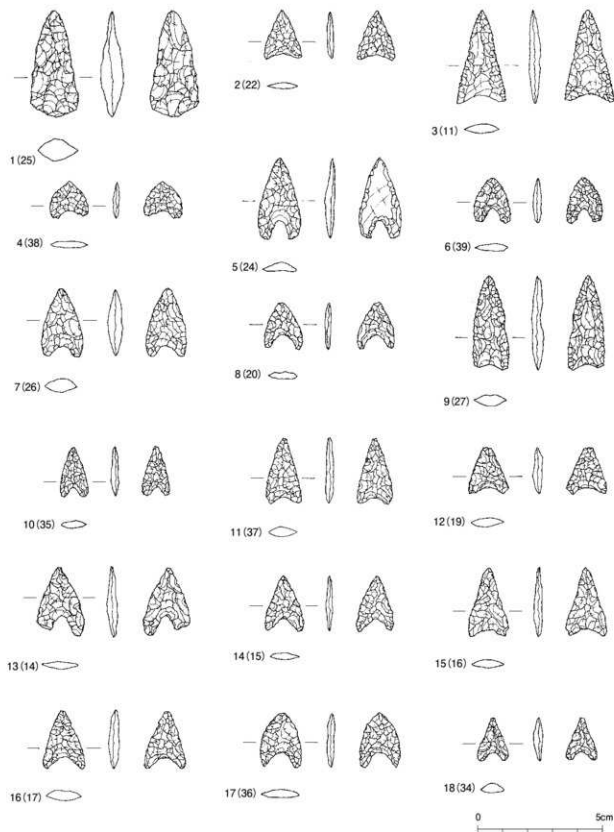
石棒類のうち有頭石棒を図示した。いずれも基本的に敲打成形されている。第27図2は被熱している。

凹石 (第27図 5)

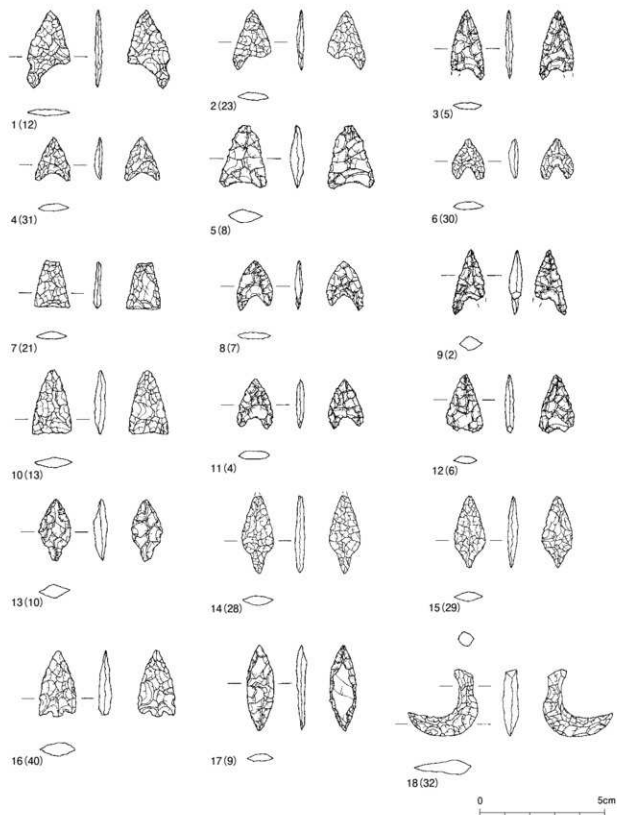
石皿と同様の基準で区別した大型の礫核石器のうち、円礫・楕円礫のほぼ中央に浅い凹みをもつものを凹石とした。



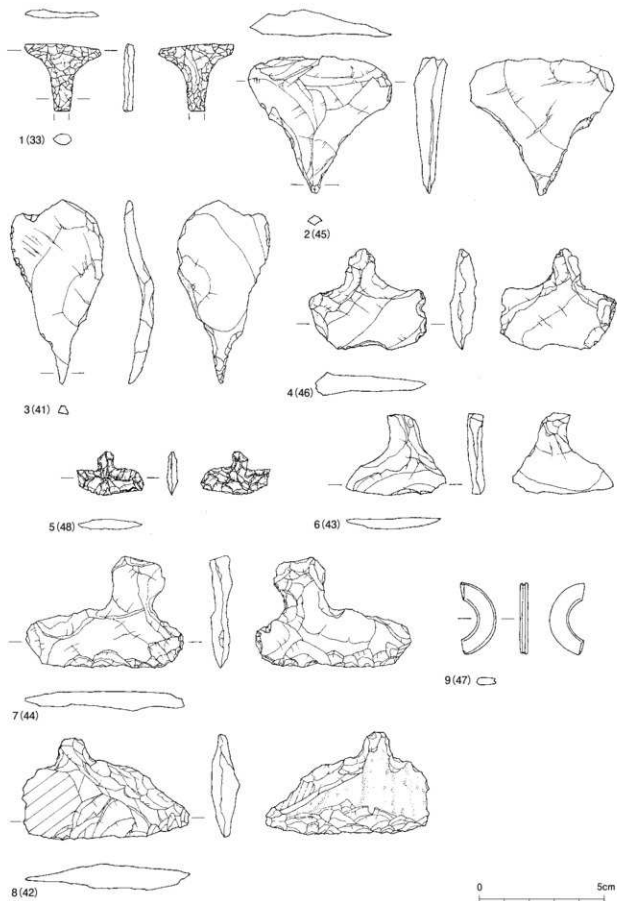
第21圖 土器、土偶



第22図 有舌尖頭器、石鏃



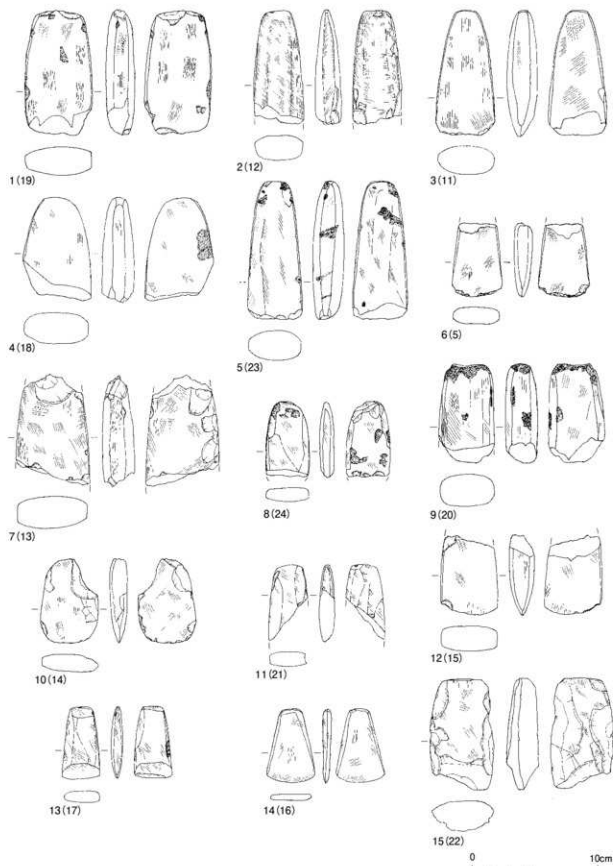
第23圖 石鏃、鈎狀石器



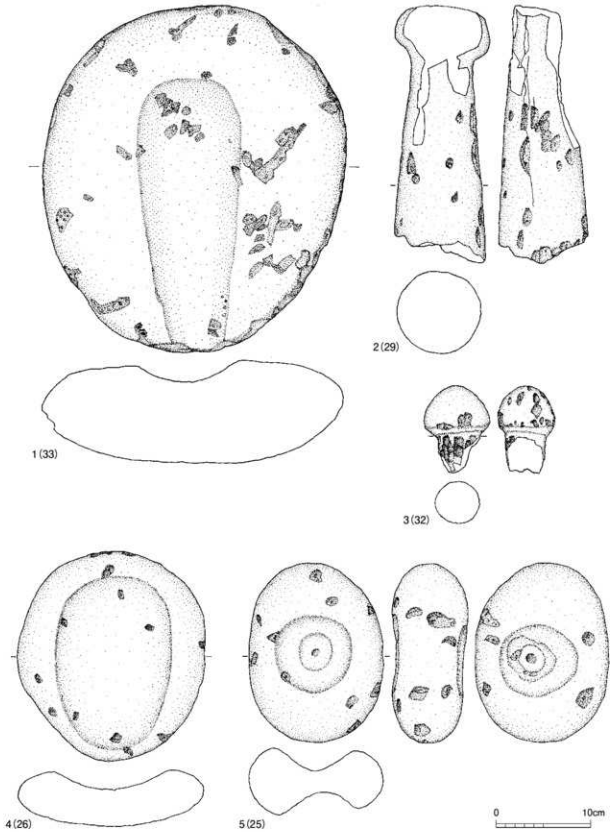
第24圖 石鏢、石匙、耳飾



第25圖 打製石斧



第26図 磨製石斧



第27圖 石皿、石棒、凹石

第6表 東小倉遺跡採集土器観察表

図版	No.	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	外面調整	内面調整	底部	残存部位	注記
第21図1	9	縄文土器	深鉢	不明	不明	[13.4]	ナデ+沈線+隆線	ナデ	不明	口縁部~体部下半	1994.3.29出土
第21図2	10	縄文土器	深鉢	不明	5.4	[8.9]	ナデ+隆線+沈線	ナデ	ナデ	体部下半~底部	1994 1月28日
第21図3	11	縄文土器	深鉢	不明	不明	[6.8]	ナデ+隆線	ナデ	不明	口縁部	1994 1月9日出土、 マセイ石フと共に
第21図4	12	縄文土器	深鉢	不明	不明	[5.4]	ナデ+隆線+穿孔	ナデ	不明	口縁部	1994 1月21日
第21図5	13	縄文土器	深鉢	不明	不明	[6.7]	ナデ+隆線+穿孔	ナデ	不明	口縁部	1994 1月26日

※[]内は残存している部位の法量

第7表 東小倉遺跡採集土偶観察表

図版	No.	種別	器高 (cm)	足サイズ (cm)	重さ (g)	装飾	制作痕	胎土	色調	残存部位
第21図6	6	土偶	[4.5]		34.9	沈線+隆線	軸穴	雲母と白色粒少量含む	明褐色	頭部
第21図7	4	土偶	[6.5]		58.0	沈線	軸穴	雲母と白色粒少量含む	橙色	頭部
第21図8	3	土偶	[6.35]		51.5	沈線	軸穴	白色粒少量含む	にぶい褐色	頭部
第21図9	5	土偶	[6.65]		102.7	沈線+刺突		白色粒少量含む	にぶい褐色	胸部
第21図10	7	土偶	[7.3]	5.8	115.9	沈線	軸穴	雲母と白色粒少量含む	褐色	脚部(右)
第21図11	2	土偶	[4.85]	5.0	49.1	沈線+刺突	軸穴	雲母と白色粒少量含む	橙色	脚部(左)
第21図12	8	土偶	[6.7]	6.5	107.7	沈線+隆線	軸穴	雲母と白色粒少量含む	橙色	脚部(左)
第21図13	1	土偶	[5.5]	9.0	158.8	沈線	軸穴	雲母を含む	明褐色	脚部(左)

※[]内は残存している部位の法量

第8表 東小倉遺跡採集石器觀察表

図版	No.	器種	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	注記
第22図1	25	有舌尖頭器	4.1	1.9	0.9	5.3	
第22図2	22	石鏃	1.94	1.48	0.27	0.5	
第22図3	11	石鏃	3.7	1.9	0.45	2.3	
第22図4	38	石鏃	1.4	1.5	0.25	0.4	
第22図5	24	石鏃	3.17	1.65	0.36	1.5	
第22図6	39	石鏃	1.78	1.45	0.3	0.6	
第22図7	26	石鏃	2.62	1.57	0.56	1.8	
第22図8	20	石鏃	1.75	1.45	0.26	0.5	
第22図9	27	石鏃	3.7	1.4	0.46	2.2	
第22図10	35	石鏃	1.96	1.1	0.3	0.5	
第22図11	37	石鏃	2.55	1.4	0.38	1.1	
第22図12	19	石鏃	1.8	1.6	0.4	0.9	
第22図13	14	石鏃	2.7	1.9	0.4	1.4	
第22図14	15	石鏃	2.2	1.5	0.3	0.7	
第22図15	16	石鏃	2.7	1.6	0.34	1.0	
第22図16	17	石鏃	2.3	1.65	0.44	1.1	
第22図17	36	石鏃	2.17	1.6	0.3	0.9	
第22図18	34	石鏃	1.7	1.2	0.36	0.4	
第23図1	12	石鏃	3.0	1.65	0.3	1.0	
第23図2	23	石鏃	2.35	1.45	0.27	0.5	
第23図3	5	石鏃	2.7	[1.26]	0.24	0.6	
第23図4	31	石鏃	1.68	1.35	0.37	0.4	
第23図5	8	石鏃	[2.45]	1.79	0.51	1.6	
第23図6	30	石鏃	1.58	1.26	0.36	0.5	
第23図7	21	石鏃	[2.84]	1.37	0.3	0.7	
第23図8	7	石鏃	1.92	1.38	0.25	0.5	
第23図9	2	石鏃	2.5	[1.09]	0.5	0.9	
第23図10	13	石鏃	2.5	1.5	0.44	1.4	
第23図11	4	石鏃	1.92	1.36	0.3	0.6	
第23図12	6	石鏃	[2.27]	[1.3]	0.3	0.8	
第23図13	10	石鏃	2.41	1.22	0.46	0.9	
第23図14	28	石鏃	[3.04]	1.23	0.36	1.2	
第23図15	29	石鏃	2.78	1.23	0.4	1.1	
第23図16	40	石鏃	2.56	1.42	0.53	1.5	
第23図17	9	石鏃	3.35	1.06	0.31	1.1	
第23図18	32	鉤状石器	2.73	2.58	0.6	2.1	
第24図1	33	石鏃	[2.65]	2.95	0.46	2.3	

第2章 東小倉遺跡採集資料整理報告

図版	No.	器種	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	注記
第24図2	45	石錘	5.6	5.3	1.1	20.4	
第24図3	41	石錘	7.2	3.6	0.6	12.2	
第24図4	46	石匙	4.6	4.0	1.0	14.5	
第24図5	48	石匙	2.61	1.65	0.41	1.3	
第24図6	43	石匙	3.9	3.2	0.6	4.7	
第24図7	44	石匙	6.2	3.4	0.9	16.4	
第24図8	47	耳飾り?	2.8	1.4	0.3	1.4	
第24図9	42	石匙	5.4	4.0	1.1	21.2	
第25図1	9	打製石斧	14.3	6.4	2.7	268.9	1994.1月19日
第25図2	10	打製石斧	13.5	4.3	1.9	141.8	1994.11月30日
第25図3	3	打製石斧	12.88	4.52	1.59	102.0	1994 はり□□□
第25図4	7	打製石斧	14.7	5.4	2.2	179.1	平9.7
第25図5	6	打製石斧	8.2	5.2	1.4	67.7	
第25図6	1	打製石斧	10.25	4.29	1.47	75.9	
第25図7	8	打製石斧	17.2	5.75	1.95	218.0	1994.11月30日
第25図8	2	打製石斧	10.19	4.69	1.55	90.8	
第25図9	4	打製石斧	10.9	5.1	1.2	90.5	
第26図1	19	磨製石斧	[10.0]	5.3	2.3	230.3	平成八年七月二十六日
第26図2	12	磨製石斧	[9.0]	3.9	2.1	122.0	1996年12月28日、川棚
第26図3	11	磨製石斧	[10.0]	4.7	2.4	195.6	平13.11.7
第26図4	18	磨製石斧	[7.8]	5.3	2.55	180.0	19□□ 5月30日
第26図5	23	磨製石斧	[11.0]	4.4	2.5	224.5	1994 2月28
第26図6	5	磨製石斧	[5.9]	4.1	1.6	66.9	平成19年11月12日
第26図7	13	磨製石斧	[8.9]	5.8	2.55	208.8	
第26図8	24	磨製石斧	[6.0]	3.5	1.1	45.2	
第26図9	20	磨製石斧	[7.9]	4.4	2.55	170.9	
第26図10	14	磨製石斧	[6.7]	4.55	1.65	61.9	
第26図11	21	磨製石斧	[6.0]	2.9	1.25	29.6	
第26図12	15	磨製石斧	[6.0]	4.5	2.0	96.2	
第26図13	17	磨製石斧	[5.7]	3.0	0.98	27.9	
第26図14	16	磨製石斧	5.9	3.9	0.65	18.5	
第26図15	22	磨製石斧	[8.9]	5.0	2.57	157.6	
第27図1	33	石皿	36.6	31.8	10.8	16kg	
第27図2	29	石棒	[27.1]	9.55	9.3	3040	平成五年十二月二十八日出土
第27図3	32	石棒	[9.1]	[6.9]	頭部6、 脚部4.4	440.0	
第27図4	26	石皿	22.0	19.7	5.9	2760	平成五年十一月□□□
第27図5	25	凹石	19.0	14.0	8.0	2220	

※[]内は残存している部位の法量

4 調査の総括

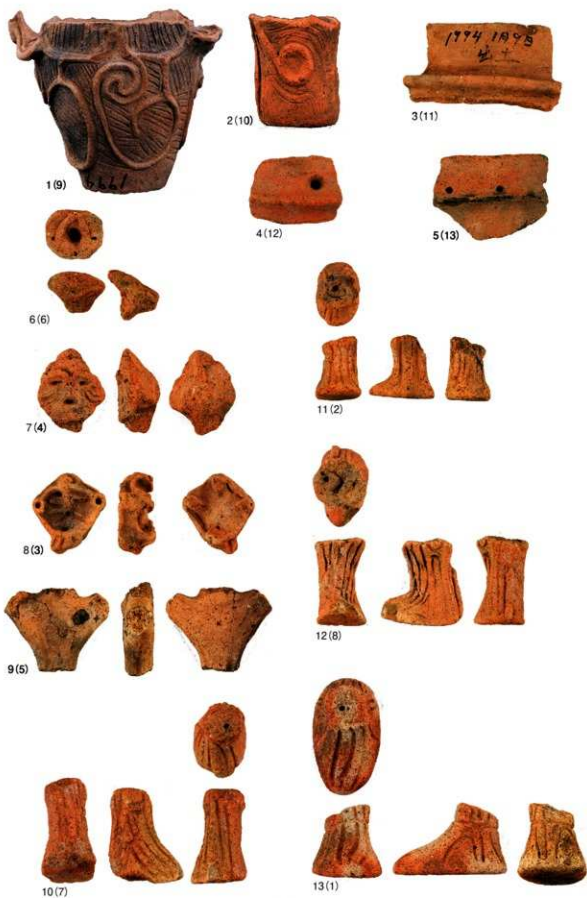
今回整理した資料は採集資料という制約はあるものの、内容的には東小倉遺跡の理解にとって重要なものであった。この資料は過去6次にわたって実施された東小倉遺跡の発掘調査成果の内容を裏付けられるものであるだけでなく、有舌尖頭器の存在から周囲に旧石器時代の人々が存在した可能性さえ示唆している。また、今回の整理調査では豊富な石器・石製品を観察する機会を得たため、黒沢川流域で縄文時代中期後半に営まれた山の恩恵を享受するムラの生活が垣間見ることができた。特に、打製石斧や石皿類の他、土偶や石棒などの「第二の道具」の豊富さは発掘調査成果からも指摘されている点である。

文化財保護法で埋蔵文化財の保護が規定され、公的に発掘調査や保護措置が実施されているが、日常的に地域の遺跡に関心を持ち守り学んでいくのは、その地域に暮らす住民である。今回の資料を保管してこられた故堀内國利氏は、まさにこの遺跡の地に生きて、理解し、学んだといえる。こういった先人がいるからこそ、私たちは、身近に遺跡が存在することに気付くのではないだろうか。

改めて、今回の資料調査にご協力賜りましたご遺族の皆様には御礼申し上げます。

引用・参考文献（五十音順）

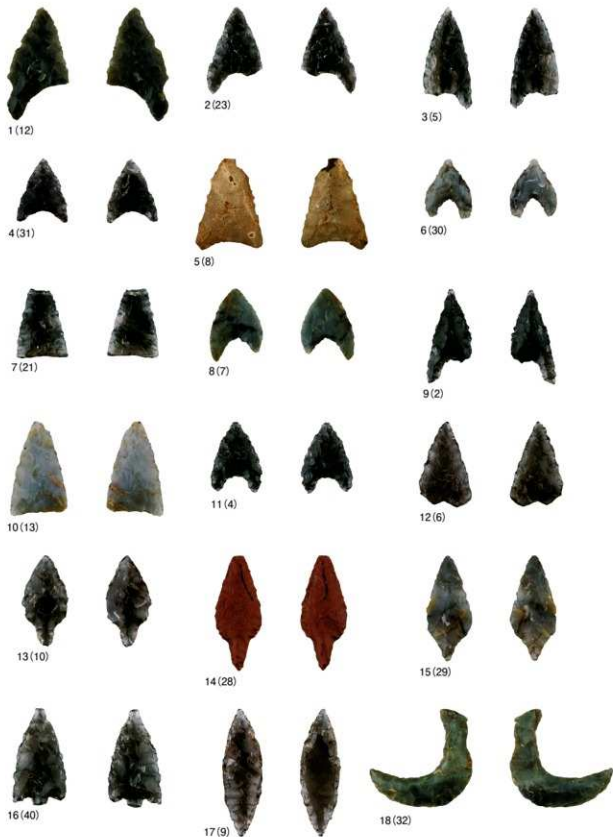
- 安曇野市教育委員会 2006 「東小倉遺跡Ⅴ—県道改良工事に伴う緊急発掘調査報告書—」安曇野市の埋蔵文化財第1集 安曇野市教育委員会
- 桐原健 1984 「縄文の石鈎」『中部高地の考古学Ⅲ』長野県考古学会 pp.57-63
- 坂北村教育委員会 2005 「県営中山間総合整備事業筑北地区埋蔵文化財調査報告書 坂北村 東畑遺跡」長野県松本地方事務所、坂北村教育委員会
- 津南町教育委員会 2011 「堂平遺跡—国営農地再編整備事業に伴う遺跡発掘調査報告書—」津南町文化財調査報告書第59輯 津南町教育委員会
- 長野県諏訪郡富士見町 1991 「富士見町史」上巻 長野県諏訪郡富士見町
- 長野県埋蔵文化財センター 2005 「安曇野農業水利事業あづみ野排水路埋蔵文化財発掘調査報告書—三角原遺跡—」長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書76 農林水産省関東農政局安曇野農業水利事業所、長野県埋蔵文化財センター
- 三郷村誌編纂会 1980 『三郷村誌Ⅰ』三郷村誌編纂会
- 三郷村誌編纂委員会 2006 『三郷村誌Ⅱ 第二巻 歴史編上』三郷村誌刊行会
- 三郷村教育委員会 1988 「黒沢川右岸遺跡」三郷村の埋蔵文化財第1集 三郷村教育委員会
- 三郷村教育委員会 1995 「東小倉遺跡」三郷村の埋蔵文化財第2集 三郷村教育委員会
- 三郷村教育委員会 1997 「東小倉遺跡—県道鋼箔工事に伴う工事立会調査報告書—」三郷村の埋蔵文化財第3集 三郷村教育委員会
- 三郷村教育委員会 1999 「三郷村埋蔵文化財（資料集）」三郷村の埋蔵文化財第4集 三郷村教育委員会
- 三郷村教育委員会 2003 「東小倉遺跡Ⅲ—下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—」三郷村の埋蔵文化財第5集 三郷村教育委員会
- 三郷村教育委員会 2005 「東小倉遺跡Ⅳ—公共下水道工事・集落道改良工事に伴う緊急発掘調査報告書—」三郷村の埋蔵文化財第6集 三郷村教育委員会
- 三郷村教育委員会 2005 「三郷村埋蔵文化財Ⅱ—発掘調査・試掘調査報告—」三郷村の埋蔵文化財第7集 三郷村教育委員会
- 吉川金利 2008 「唐草文系土器」『総覧 縄文土器』アム・プロモーション pp.436-443
- 古田恵二、中村耕作編 2010 「長野県安曇野市穂高古墳群2009年度測量調査・現状確認調査報告書」國學院大學文学部考古学実習報告第44集 國學院大學文学部考古学研究室
- 古田恵二、中村耕作編 2011 「長野県安曇野市穂高古墳群2010年度測量調査・現状確認調査報告書」國學院大學文学部考古学実習報告第45集 國學院大學文学部考古学研究室



土器、土偶 (縮尺 1/3)



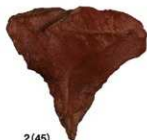
有舌尖頭器、石鏃 (縮尺 1 / 1)



石鏃、鈎狀石器 (縮尺 1 / 1)



1(33)



2(45)



3(41)



4(46)



5(48)



6(43)



7(44)



9(47)



8(42)



石錐、石匙、耳飾 (縮尺2/3)



1(9)



2(10)



3(3)



4(7)



5(6)



6(1)



7(8)



8(2)



9(4)



打製石斧 (縮尺1/3)



1(19)

2(12)

3(11)



4(18)

5(23)

6(5)



7(13)

8(24)

9(20)



10(14)

11(21)

12(15)



13(17)

14(16)

15(22)

磨製石斧 (縮尺 1/3)



1 (33)



2 (29)



3 (32)



4 (26)



5 (25)



石皿、石棒、凹石 (縮尺 1 / 4)

調査報告書抄録

ふりがな	へいせい22ねんどあづみのしまいぞうぶんかざいはっくつちようさほうこくしょ
書名	平成22年度安曇野市埋蔵文化財発掘調査報告書
副書名	東小倉遺跡採集資料整理報告
巻次	
シリーズ名	安曇野市の埋蔵文化財
シリーズ番号	第5集
編著者名	土屋 和章
編集機関	安曇野市教育委員会
所在地	〒399-7102 長野県安曇野市明科中川手6824番地1 TEL0263-62-3001 (代表)
発行年月日	西暦2012年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °' "	東経 °' "	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
ひがしおぐ らいせき 東小倉遺跡	ながのけんあづみのしみ ざとおぐら1146ぼん1ふ きん 長野県安曇野市三郷小倉 1146番1付近	20220	3-6	36° 15' 28"	137° 51' 50"	-	0㎡	-

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
東小倉遺跡	集落跡	縄文時代	-	縄文土器、土製品、石器、 石製品	採集資料の整理報告。

要約	故郷内國利氏採集の東小倉遺跡出土資料を整理。東小倉遺跡は過去に6次に渡って発掘調査が実施されており、縄文時代中期後半の集落跡から多数の遺構と多量の遺物が出土している。今回の整理資料は、この発掘調査成果を内容的に補足するものである。
----	---

安曇野市の埋蔵文化財第5集
平成22年度 安曇野市埋蔵文化財発掘調査報告書 東小倉遺跡採集資料整理報告
2012
発行 平成24年(2012)3月31日 安曇野市教育委員会 長野県安曇野市明科中川手6824-1 電話0263-62-3001(代表)
印刷 藤原印刷株式会社 長野県松本市新橋7-21